

# 兵庫のソフト開発会社 錦江に出先拠点

## 隙間時間にテレワーク

隙間の時間にテレワークはいかがが。錦江町の地域活性化センター神川で、兵庫県ソフト開発会社「ソフィック」の錦江オフィスが本格始動した。住民ら7人を雇用し、企業や団体などのデータ入力やホームページ（HP）の維持管理をしていく。将来はアプリの開発などを目指す。



地元雇用を進めるソフィック錦江町オフィスのキックオフミーティング。錦江町の地域活性化センター神川

### 7人雇用 本格稼働 HP維持やデータ入力

町は、テレワークや旅先で働くワーケーションなど、多様な働き方や地域活性化に取り組む企業団体を受け入れている。廃校した神川中学校を活用し、サテライトオフィス（出先拠点）として貸し出し、ソフィックは2022年に進出した。

23日、業務を開始するキックオフミーティングがあり、ソフィック側の代表、塔筋幸造さん（69）は「この地域だからできることがある。常に進化、変革するつもりで仕事をしてほしい」と呼びかけた。

協力会社の東口昇さん（51）は、旅先にちなんだクイズに答えて、景品がもらえるアプリ「錦江町検定」の開発を目指す考えを示し、「HP関係の仕事は常にある。錦江町の良さは、人、技術を磨き、できる仕事を増やしてほしい」と述べた。

時給は千円から。週に2回、各3時間ほど働く錦江町の主婦、齋岐理津子さん（49）は「自分のペースで働けるのでありがたい。家計の足しになれば」と話す。町未来づくり課の中島裕二課長（60）は「錦江町にながら、東京や兵庫の仕事ができ、都市部の課題を地方で解決できるのがいい」と語った。（永井貴士）